



第29回

東西四大学合唱演奏会

第29回
東西四大学合唱演奏会

1980年6月22日(日)

大阪フェスティバルホール

主催 東西四大学合唱連盟

御挨拶

本日はお忙しいところを、私達東西四大学合唱演奏会に御来場下さいまして、ありがとうございます。

昭和27年に第1回演奏会を開いて以来、回を重ね、今年で第29回目の演奏会を迎える事ができました。これもひとえに皆様方の暖かい御理解、御支援の賜物と深く感謝しております。

長い歴史と伝統を持つ東西の四大学が一堂に会し、このような演奏会を開くことは、大変意義深いことだと考えます。これからも、良い意味でのライバル意識を通じて、互いに刺激し合い、より一層の発展へと精励していこうと思っております。

最後に、本日の演奏会を催すにあたり、御援助、御指導下さいました諸先生、関係者の皆様に厚く御礼を申し上げますとともに、今後とも一層の御鞭撻をお願い申し上げます。

東西四大学合唱連盟





第29回東西4大学合唱演奏会の開催を関西学院グリークラブ、同志社グリークラブ、早稲田大学グリークラブの皆様とともに慶びたいと思います。弛まず向上を目指す4つの男声合唱団が一堂に会するこの演奏会は、それぞれが日頃の練習の成果を試すために不可欠の行事であります。此れが、互いに啓発しあい、そして互いの親睦を深めるためのよい機会と成るようお祈り致します。

慶應義塾ワグネル・ソサィエティー男声合唱団にとって、今年は2つの意味で特別な年であります。1つは、ワグネル・ソサィエティー・オーケストラとともに結成80年目を迎えたことであります。幸い、この長い年月のあいだに、数多くのすぐれた先生の御指導を得ることができました。諸先生の貴いお力添えに対して、ここで心から御禮を申し上げます。もう一つは、畑中良輔、大久保昭男両先生に御指導をお願いするようになりましてから、今年で20年になることであります。両先生とも、近年益々御多忙である中を、この合唱団に惜しみなく力を注いで下さいます。二つの意味で10年の節目である今、部員諸君はあらためて気持ちを引き締め、一層謙虚に努力を積み重ねて行く心構えを固めることが必要でありましょう。そして良き師に相応しい合唱団に成らなくてはなりません。

「ワグネル・ソサィエティー」は、言うまでもなく、リヒャルト・ヴァグナーに因む名であります。このヴァグナーがバイロイト音楽祭を始めてから100余年になり、近年、記念展覧会などの行事が世界の多くの場所で催されました。リヒャルト・ヴァグナーと慶應義塾ワグネル・ソサィエティーの結びつきをあらためて考えてみるべきよい機会があります。「ワグネル」の名は、何よりも、新しい種類の芸術を創造しようとした此の偉大な人物の進取の精神を象徴しているのだと思います。この合唱団が、今日の演奏会に意味のある寄与をすることができるよう念願致します。

慶應義塾ワグネル・ソサィエティー男声合唱団部長

神谷傳造



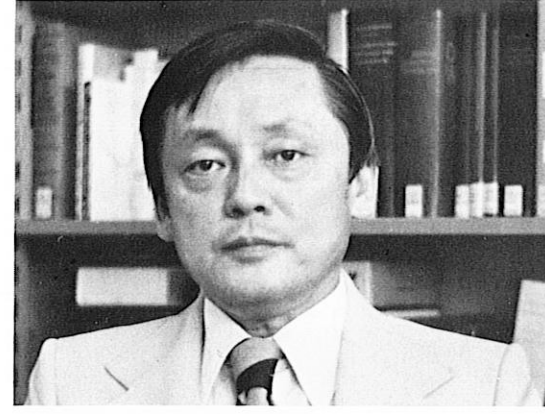
大学野球の世界では古くから東京六大学、関西六大学ということばが使われている。どういうわけか、東京六大学の場合には昔も今も中の六校が固定しており、関西六大学の場合にはある時期から入れ替え戦でその中味が変わるようになった。残念ながら関西学院は現在関西六大学に入っていない。こういう風にみると東西四大学合唱演奏会という名前は興味深い。昭和27年に第1回をはじめられた当時の現役の方たちの心意気と誇りが感じられてほゝえましい。しかしそれ故に早慶同関の演奏会をもって東西四大学とよぶ事を世間が当然のこととして受け入れるように四大学は努力しなくてはならない。それはこの名の演奏会をもつものの責任である。そして今までその責任をはたしてきたと信じている。

もちろん合唱の場合には球技とちがって、入れたゴールの数だけでその集団の評価がなされるわけではない。早慶同関はそれぞれ異なる個性であり当然合唱にもそれぞれの良さがあって当然だと思う。今日エール交換の時に関学グリーの諸君の歌ったA SONG FOR KWANSEIの中に「(関西学院に我らは集う)、はじめでなく、終りでなく(Not first nor last)」という一節がある。歴史と伝統の異なる四校はそれぞれに与えるべきものをもって。いずれがfirstか、いずれがlastかというようなものではないと思う。どうかそれぞれの持つ良いものを存分に出しあって、立派な東西四大学の演奏会をもってほしいと思います。

今日御来場下さいました皆様。史上初の衆参両院の同日選挙の日。昨日までの街の喧騒を忘れ、明日からの世間の騒ぎをよそにして、しばらく静かに四大学の演奏に御声援をお送り下さいますようお願いいたします。

関西学院グリークラブ顧問

今田寛



今年もまた四連のコンサートの時期がやってまいりました。わが早稲田大学グリークラブは、昨夏のヨーロッパ(スイス、オーストリア、ハンガリー、西独)遠征の経験をもとに、今回、ドイツ語の大曲、マーラーの「さすらう若人の歌」を演奏することになりました。ヨーロッパでの体験を生かしながら、練習にあたっては更に完璧を期するために、語句の徹底的理解と、東京独逸学園のカール・ハイツ・シュトケ先生の発音指導など、必要と思われる対策をすべて立てて準備を進め、ここにその成果を皆様の前に発表させていただくわけであります。

ボイス・トレーナーは長年お世話になっておりました鹿野道男先生に代って新しく山本健二先生に御指導を受けることになり、また今回の指揮者としては、かつてのわがグリーの常任であられ、今や世界的な名声を博されている小林研一郎先生をお迎えしての演奏であります。

必ずや、立派な成果があがるものと確信いたしている次第でございますが、これから益々進歩発展を期するためには、皆様方の御批判と御激励が何よりも大切であることは申し上げるまでもございません。どうぞよろしく願いいたします。

早稲田大学グリークラブ会長

上田稔



同志社グリークラブは、昨夏中国に演奏旅行を行った。1966年以來の四人組支配の下に、西洋音楽は禁止状態にあったし、1977年四人組打倒以後も、小沢征爾が北京を訪れて中央交響楽団を指揮したことがありはしたが、一般大衆がなまの西洋音楽に触れる機会はまだ皆無に近い状態であった。しかし、上海・南京・西安・天津・北京での演奏会における人びとの反応は、驚くほど正確で純粋であった。三木稔や多田武彦などの難曲に対して満堂の聴衆の示したほとんど熱狂的な歓呼と拍手とは、人びとの心がいかに音楽の至高の世界に開かれているかを余すところなく語っていた。ベートーヴェンの音楽をブルジョア音楽として規定した政治的音楽教育が、何の効果をも民衆の間にあげていなかったことを、それは正直に示していた。

ひとが、旋律とリズムと和声の世界に完全を求めてひたむきな演奏を志すとき、完全者はそこに自己を開示する。宇宙はそのとき、自己を超えた美の栄光に自らを委ねてえい動する。これはイデオロギーも論理も言語も、すべてそこで自らを空しくせねばならぬ境地である。中国の民衆の率直な反応に、われわれもまた深い感動を禁じえなかった。

同時に、われわれは志を同じくして究極的な音楽美を共に追い求めてまた「四連」30年の歴史に、感謝の思いを新たにしたのであった。なぜなら、東西四大学の異質の合唱団が、相互に刺戟しあい琢磨しあったこの歴史の中から、至純の靈感は絶えることなく湧き出たのであったし、それはまたあらゆる時代とそれぞれの異なった状況に生きつなぐお人間精神の尊厳と高貴の根源を希求する人びとの心をうつ音楽を創る原動力なのであったから。そして、この歴史は今後も互いに努力して譲り続けねばならぬものと思われる。

同志社グリークラブ顧問

遠藤彰

エール交換

(昼の部)

慶應義塾ワグネル・ソサエティー男声合唱団
関西学院グリークラブ
早稲田大学グリークラブ
同志社グリークラブ

(夜の部)

早稲田大学グリークラブ
同志社グリークラブ
慶應義塾ワグネル・ソサエティー男声合唱団
関西学院グリークラブ

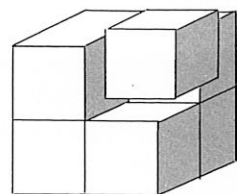
第1部

慶應義塾ワグネル・ソサエティー男声合唱団

「JAGD LIEDER」

1. Zur hohen Jagd
2. Habet Acht!
3. Jagdmorgen
4. Frühe
5. Bei der Flasche

作曲 Robert Schumann
指揮 木下 保
ホルン 吉田耕造
松本 浩
小谷宏一郎
桜井広一
太田 幸



関西学院グリークラブ

男声合唱と二台のピアノのための「レクイエム」

1. 第一楽章
2. 第二楽章
3. 第三楽章

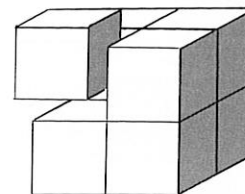
作曲 三木 稔
指揮 北村 協一
ピアノ 浅井 康子
戎 洋子

Intermission

第2部

早稲田大学グリークラブ

「さすらう若人の歌」



- I. いとしいひとがとついでゆくと
- II. この朝 野をゆけば
- III. 私は灼熱した刀をもっていた
- IV. いとしいひとの青いひとみは

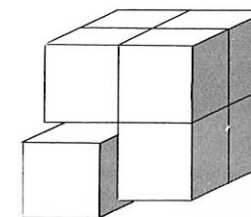
作詩 Gustav Mahler
作曲
編曲 福永陽一郎
指揮 小林研一郎
ピアノ 久保 晃子

同志社グリークラブ

「DIE TAGESZEITEN」

1. Der Morgen
2. Mittagsruh
3. Der Abend
4. Die Nacht

作詩 Joseph Von Eichendorff
作曲 Richard Strauss
指揮 福永陽一郎
ピアノ 伊吹元子
山本優子
ホルン 山本昭一
ティンパニー 三島輝司



第3部

合同演奏

男声合唱とオルガンのための「ミサ曲」ハ短調

1. Kyrie
2. Gloria
3. Credo

作曲 Franz Liszt
指揮 林 雄一郎
オルガン 岡安早苗

夜の部は、第1部と第2部を入れ替え、第3部はそのまま演奏します。



明治36年10月14日兵庫県豊岡に生まれる。大正15年東京音楽学校を卒業、昭和3年同校研究科を修了される。在学中はネトケ＝レーヴェ氏に師事された。昭和8年から10年まで、ドイツ・イタリアに留学され、ドイツではバイセンボルン氏に師事された。帰国後は母校の教授として教鞭を執るかたわら、リート歌手として活躍された。辞任後はオペラにも進出され、「タンホイザー」「ローエングリン」等数多くのオペラの初演をてがけられた。また「夕鶴」等に代表される日本の歌曲に対しての非常に卓越した解釈は他の追随を許さない。現在では、洗足学園大学名誉教授、大阪音楽大学講師、武庫川女子大学講師として、また、東唱、日本女子大学など、プロ・アマの数々の著名な合唱団の指揮者として、文字通り東奔西走の御活躍をなされている。ワグネルは、先生が音楽学校に在学されている時からずっと御指導いただき、昨年9月には、聖心女子大学グリークラブ、日本女子大学合唱団とともに先生の喜寿の祝賀演奏会を開くなどして現在に至っている。この50余年にわたる先生の御尽力に対して、慶應義塾の名誉塾員の称号が贈られた。なお、昭和46年秋に紫綬褒章を52年春には勲三等瑞宝章を受章された。

慶應義塾ワグネル・ソサエティー男声合唱団指揮者

木下保



昭和29年、関西学院大学経済学部卒業。在学中、関西学院グリークラブの指揮者として活躍。卒業後、東京コラリアーズ入団。昭和36年、藤原歌劇団入団、昭和38年同団によるブッチーニ「外套」を指揮し昭和40年退団。昭和43年、二期会合唱団常任指揮。昭和45年二期会専属指揮者となる。昭和48年、第6回文化庁芸術家海外派遣研修生として渡欧。畑中良輔、森正、今村征男の各氏に師事。現在、二期会専属指揮者。東京室内歌劇場指揮者。

関西学院グリークラブ指揮者

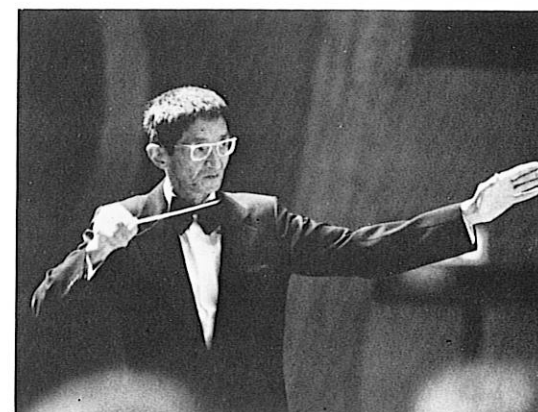
北村協一



東京芸術大学、作曲科・指揮科卒業。作曲を石桁真礼、指揮を渡辺暁雄、山田一雄の各氏に師事。1974年、ブダペストで行なわれた国際指揮者コンクールに第1位、特別賞を受賞。その後、リスト音楽院ホールでハンガリー国立放送交響楽団の定期を指揮し、センセーショナルなヨーロッパデビューを飾った。1975年、国立ハンガリー交響楽団と国立放送交響楽団に、第一客演指揮者に招かれ、ハンガリーを中心に活動を開始。ハンガリーでは英雄的存在として、テレビ・ラジオ・コンサート・オペラ・夏のフェスティバルと、多忙な日々を送っている。他に、アムステルダム・フィルハーモニーの第一客演指揮者、ブラハの春、ルツェルン・フェスティバル、リミニ・フェスティバル、マルトンヴァン・シャール夏のフェスティバルのほか、ローマ夏のコンサート、アムステルダム・コンセルトゲボウ、アムステルダム・フィルハーモニー、パルマ劇場管弦楽団、南西ドイツ放送管弦楽団、サンタチェチーリア・ローマ、ボローニャ、ミラノ・ライ、フィレンツェ、ボルドー、トゥールーズ、西ベルリン放送、ライプツィヒゲヴァントハウス、シュタッツカペレ・ベルリン、ワイマル・フィルハーモニー、ドレスデン・シュタッツカペレ、ドレスデン・フィル、ブラチスラバ・フィル、国立ハンガリー、MAV、スロヴァーク・フィル、ラジオ・カールマルクスシュタット、チェコ・フィルハーモニーと枚挙にいとまがないほどである。オペラでも日本人として初めてイタリア・パルマで「ルイザ・ミラー」を指揮。1980年より毎年ローマ歌劇場とも契約がある。毎年行なわれるブダペストの夏のオペラフェスティバルにも年毎の契約があり、レコードは、フンガルトンからの「春の祭典」と「ティル・オイレンシュピーゲルの愉快ないたずら」交響詩「ドン・ファン」。日本でも同版がキングから発売されている。日本では、NHK交響楽団の定期、都響定期、東響定期、札幌定期に出演する他、読響、新日フィル、東フィル、名フィル、京響、群響等に客演している。東京都交響楽団ヨーロッパ公演の指揮者として同行。ブダペストの第2回国際指揮者コンクール審査員。また、NHK・TV、「音楽の広場」にレギュラー出演。現在、東京都交響楽団正指揮者、東京交響楽団主席客演指揮者、東京音楽大学講師。

早稲田大学グリークラブ指揮者

小林研一郎



1926年神戸に生まれる。東京音楽学校（現東京芸大）本科ピアノ科出身。井口基成、豊増昇氏に師事。在学中より東宝交響楽団（現東京交響楽団）で近衛秀磨氏の助手をつとめる。1951年藤原歌劇団に入団し、ピアニスト、副指揮者、合唱指揮者として経験をつむ。M・グルリット氏に師事。1956年～65年、藤原歌劇団常任指揮者として活躍し、同団の第三次渡米公演に同行。アメリカ、カナダの主要46都市での公演を指揮した。1959年、61年、63年、71年にNHKのイタリア・オペラ来日公演に日本側代表指揮者として参加。副指揮者、合唱指揮者をつとめる。オペラ指揮者として日本屈指のベテランである。合唱音楽に関しても経験が深く、合唱界の第1人者の1人である。プロ、アマを通じての指揮、講師、審査員としての活動、編曲、レコード録音など、数えきれないほど多方面にわたって活躍している。評論活動も注目されている。1979年ウィーン世界青少年音楽祭国際合唱コンクール審査員。

同志社グリークラブ指揮者

福永陽一郎

「JAGD LIEDER」

シューマンと「JAGD LIEDER」

ロベルト・シューマン（1810～1856）は、ウェーバー、シューベルト、メンデルスゾーンと共に、初期ドイツロマン派の四大家と呼ばれている。彼等の芸術は市民的であり、身近に親しまれるものであることを目指した。その結果、彼等は好んで小さい室内楽的な形式や、リートや、或いは、合唱曲を選んだ。シンフォニーの場合ですら、音の豊富さよりも繊細な色彩を出すことに努め、烈しい情熱的なものを避けて、優雅な瞑想的な作品を書いた。これは、自己の夢想の世界に閉じこもろうとする内省（Innenschau）への傾向である。又、音楽と文学を結合させ、感性を解放し、個性、神秘を称え、民族的自覚を特色としてもっている。しかし、シューマンの作風は、メンデルスゾーン等のような明快な構成と、磨きのかかった均整のとれた作風と違い、不均整で、外郭的な構成を無視して、瞑想的に対して情熱的という二つの相反する性格をもっている。更に、シューマンは《Neue Zeitschrift für Musik》等における批評活動で、ショパンやブラームスを世に紹介したことは有名であるが、その論文は、彼にとって音楽と詩的な観念との内的関係が、音楽の動機、及び枠となっていることが自明であることを語っている。

「Jagd Lieder」(狩の歌)は、ハイリヒ・ラウベ（1806～1884）の「狩の本」に曲をつけたもので、全曲バルトホルン伴奏で書き上げられている。ホルンという楽器は、木管のように澄んだ詩的な雰囲気も出すし、トランペットよりも鋭い響きさえ発する最もロマンティックな楽器である。その表現力の柔軟性は肉声にも通じるものがあり、技術的な難しさも加わって、まさに金管楽器の王者といえよう。慶応ワグネルが「Jagd Lieder」を演奏するのは、八年ぶり、三回目であるが、今回は桐朋音大の学生にホルン伴奏をお願いすることになった。彼等と共に、素朴で男性的なドイツの Jägerblut（狩人魂）を、思う存分歌い上げられたら幸いである。

1. Zur hohen Jagd

狩に出かける前の狩人達の勇んでいる気持を歌う。狩と神の讃歌である。豪放な狩人達の大物を仕留めようとする熱気が力強い6拍子で表現されている。

2. Habet Acht!

今まで多くの友が不注意から生命を失ってきた。ともすれば自分もという狩人達の不安が突然のfやPPとなって表わされている。最後は死者の冥福を祈り、深い(A-moll)の中で終る。

3. Jagdmorgen

爽やかな大気、酸っぱい森の香、鳥のさえずる声など、すがすがしい朝の気分が快活に歌われている。夜明けが近づくにつれて狩人の心はますます奮い立ってくる。

4. Frühe

ホルンの憂愁を含んだ前奏に引き出されて、各パートが交互にモチーフを出す。連続する不協和音、長調・短調の反復、そして最後は明るく（D-dur）で微かな陽の光を見せてくれる。

5. Bei der Flasche

フランス・イギリスを引き合いに出し、ドイツの狩人魂がいかに優れているかを歌う。狩の本質を知っているのはドイツ人だけだと意気高らかに歌い、素朴な愛国心を感じさせてくれる。

1、大物獵のための

さあ獵へと奮い立て
汝等狩人、獵へと奮い立て！
我等は鹿を狩り捕えんことを欲す
氣高き赤き鹿を
日は爽快のうちに昇り
鹿は野からすみかへと帰る
さあ汝 やぶへと奮い立て！
そのやぶにかの鹿 その通り路を保ちぬ

神は我等にこの大地を与え給うた
その大地の上のすべてのものと共に
神は我等に獲物の足跡を教え
銃身を与え
それに加えて明晰な眼と
頑丈な腕を与え給うた
さあ言ってみろ、神はそれが何に用いられる
ことを望んでいたかを、緩慢な平穩のうちに
留まり給え

さあ 狩よ万歳
この世の絶えざる雷雨よ！
悲しむ者は苦しみ悩むがよい
舌薔のものは金を追い求めるがよい
我等は朝に晩に
強健なる行為に目を向ける
妻、子、罪と不安が
神を家では煩わさん

2、氣をつける！

氣をつける 狩獵中は！
多くの人々が死んで来た
隣の人ともつれあい
そして銃が発射されたがために
氣をつける 狩獵中は！

氣をつける 狩獵中は！
性急さはまだ軽率ではないが
盲目的な性急さは何も得ず終るだけ
中途半端にねらいをつけてもそれはただ
水泡に帰するだけだ
氣をつける 狩獵中は！

氣をつける 狩獵中は！
各人 今 銃の装填に際しては
撃たれた仲間を思い出せ
神よ その生を終えた仲間に救いの
手をさしのべよ！ おやすみ

3、狩の朝

おお すがすがしい朝 爽やかな勇氣
なんでこの氣分を忘れようか！
誰が知ろう 神がこのような幸を
再び私に与え給うと
故郷には愛しい家族が
我が胸には みなぎる生命本體が
そして頭上には星が輝く！

朝は星を消え失せさせ
朝風は樹々をにぎわし
私は暗い狩小屋から抜け出し
短い夢からさめる
爽やかな大氣を吸いこみ
酸っぱい森の香をのみこむ
胸に湧きあがる希望を感じる！

そして 行動はよりははっきりと広がっていく
夜が明けゆくにつれ
鳥もまた歌を試し
すべてのものがそれに合わせる
神よ 貴方の大なる家なるこの森の中で
生きることがいかに難しいことが
なんと容易のように見えることが
私は狩と命に対して感謝しよう！

4、早朝

朝早く狩人は床から起き出で
一日の生活を始める
銃の照準をさす日の出の光は
一日の獲物よりもはるかに素晴らしい
夜明けは野獣の花嫁
夜明けと野獣はむつまじい
早朝にみる光景は
我々にとって簡単には忘れることができない
獵の時の！

5、酒びんをかこんで

ドイツほどの狩が他にどこにある
フランス人は木を伐りすぎて
狩を保護せず、すでに衰えてしまった
生意気な若者がさえずる鳥を
射ってしまったのだ

イギリスでは鶏を家で飼うのが関の山だ
工場ではガンガンバタバタ
機械はカンカンシュシュ
音を立てて煙をはき
これでは獵獣は全くいないはずだ

真剣な厳しい獵術は
我々ドイツ人だけが知っている
森や原野に生活して
自然の中にひたりきることこそ
ドイツの狩の本質なのだ

さあ なみなみと満つ盃を飲み干そう
ドイツの狩よ 万歳！
歡喜の中で夢を結び
技を磨き 作戦を練る
狩こそ我が生活だ

狩は心をきたえ 腕をみがき
活力 体力と勇氣を養う
もしこれが我がドイツを守るのに
役立つならば 我々は武器については
十分知りつくしている
ドイツ狩人魂 万歳！

～男声合唱と二台のピアノのための～「レクイエム」

「レクイエム」について（楽譜より抜すい）

私達作曲家は、今あまりにも豊富な音響的手段の中に埋められて、自分を持する事に度々とまどわねばなりません。そして現代を追求し、現代に乗り遅れまいとして、何か一番大切なものを忘れがちです。否、それを忘れる事が現代らしいドライな在り方だと信じられているようです。私は、併し、そのような仮面の下で自分をごまかしたくない——生々しいヴァイタリティーを表出し、抒情の水脈を拓く事に、いつの時代にも揺ぎない音楽本然の姿を求めたいと思っています。男声合唱という素材が、中途半端な前衛的手段を寄せつけぬ厳然たる何物かを持っている事は大変幸いな事でした。

この作品に取り上げた詩は、1936年ウィーンで出版された“Dichtungen der Naturvölker”(Echart von Sydow 訳)を更に日本語に訳した「南方原住民の歌謡」一浜野修訳、昭和19年博文館発行—という書中にある、ポリネシア・マンガヤ島住民の「ヴェラを悼む葬送の歌」を元に誤案修正を加えたものです。恐らく始原の形での詩の持ち味は何重ものメタモルフォーゼによって失われていると思いますが、私はこの心打つ題材を、現代の恐るべき数々の殺戮によって、天寿を全うせず昇天した魂への広い意味での鎮魂歌に植え直しました。勿論音楽上の資料は全くありませんでしたので、曲は全て創作されたものです。尚、この作品は1962年夏から1963年10月の間に作曲され、1963年10月28日文京公会堂に於て、バリトン独唱 中村義春、合唱 東京リーダー・ターフェルフエライン、オーケストラ ツイス・フィルハーモニック・ソサエティ、指揮 荒木宏明で初演されました。

三木 稔

彼岸への対話（レクイエム歌詞として）

第1楽章

聴こえるか友よ 海鳴りの声が
あの松の林の蔭の
大岩の上で飛び散る波の音だ
さあ、お別れの時が来た
どなたもお支度は喪服に花束

さあ行け あそこの崩来な岩まで
あそこで順風の来るのを待とう
おまえを海の向うへ渡す風を

あの深く うす暗い断崖
不安定な石の上か
おゝ わたしの魂を休ませてくれ

聴こえるか友よ 海の音楽が
お前は偉の悪い旅人
きょうから住む国と決ったあそこは
大口あいた墓穴が通路だ
さあ、お別れの時が来た
どなたもお支度は喪服に花束

第2楽章

わたしの道は
海に近い真黒な岩壁の上を走っている
足場もない切りたった岩の上を
この足弱な靈達を連れて行くのか
おまえの道は
海に近い真黒な岩壁の上を走っている
足場もない切りたった岩の上を
おゝ ここまで追い込んだものは何だ
靈たちよ 待とう

南東の風
それが わたしたちを吹いて
この広い海を渡してくれるのだ
あちこちと彷徨うのだ

潮に洗われた岩の上も
軽々と跳び歩こう
でこぼこな岩で足を痛め
幽暗な氣に圧されて崩折れ
そしてなつかしむ

おや泣虫ぞろいの御一同
その指揮官が
おゝ友、お前が

時折かかる湿っぽい霧のベールが
たたずむ山々を視野からかくし
時には潮の飛沫が吹きつける
さあ、お別れの時が来た
どなたもお支度は喪服に花束

第3楽章

急げ
急げや
船出の場所へ
氣をつけろ 足をふみはずな
返れ
引返せ
船出はすまい
岩も叫ぶ 木も叫ぶ
海の風さえ取り乱している

急げ 急げや
船出の場所へ急げ

岩道では誰も彼も足を痛めたらしい

棕櫚の林の間を縫って
あれが淋しい彼岸への道
どうやら道の半分は来た
日が落ちるか
暫く待とう

見よ、東を
見よ、西を
見よ、太陽はすでに地の果にかけり
再び道を返えすすべもない
さあ、お別れの時が来た
どなたもお支度は喪服に花束

「さすらう若人の歌」

「さすらう若人の歌」

マーラー自作の詩に、1883年から1885年にかけて作曲されたこの4曲から成る歌曲集は、当初、バス独唱及びピアノ伴奏という形をとったが、1896年3月16日のベルリンに於ける初演に先立って、管弦楽伴奏に編曲され、翌年出版された。作曲年代は、マーラーがオールミュッツで指揮者として本格的な活動を始め、さらにカッセルの王立歌劇場の副指揮者に就任した時期にあたり、マーラー23才から25才の頃である。

詩の内容は、恋人が自分を裏切って他の男のもとへ嫁いでゆき、そして自分は傷心のままに何処ともなく、さすらいの旅に出る、といったもので、シューベルトの「冬の旅」と共通した感情がそこにはある。1885年1月1日に、友人のフリッツ・レーアに宛てた手紙の中でマーラーは、「僕は歌曲集をひとつ書いた。さしあたって6曲で、これらは全て彼女に捧げられたものだ。」と書いているが、この「彼女」とは、カッセルの歌劇場の女流歌手ヨハンナ・リヒターのことであり、彼が就任して2年たらずでカッセルを去ることで、終わってしまった彼女との恋愛が、この歌曲集に色濃く影を落としているものと思われる。

「さすらう若人の歌」は先に述べた様に、当初は6曲から成っていたらしいが、今日では4曲のみ残っている。これらの曲は、明確に対立した曲想を持ちながらも、民謡的な素朴さをそれぞれに有している。しかし、精緻で澄明なオーケストレーションや、いわゆる「発展的調性」即ち、曲の冒頭と末尾とが異なる調性をもつという手法が用いられるなど、すでに後のマーラーの交響曲に見られる要素を含んでおり、また第一交響曲の第一楽章に第二曲の主題が、そして第三楽章に第四曲の終結部分の旋律がそのまま取り入れられているのを見ても、この歌曲集がマーラーの音楽の出発点となったことが理解されるのである。

「さすらう若人の歌」

I
いとしいひとがとついでゆくと
しあわせそうにとついでゆくと
私の胸はかなしみに破れた。
小部屋の中に
小暗い部屋にとじこもって
いとしいひとを
恋しいひとを思って泣いた。
青い花よ、しおれるな
青い花よ、しおれるなノ

小鳥はやさしく甘い声で
緑の野原に歌いやまない、
「ああ この世の美しさよ
パイチュク パイチュク パイチュク」と。
鳥よ歌うな、花よ咲くな、
春はすでに過ぎ去ったノ
すべての歌の時はずきたノ
日がくれ、

眠りにつこうとするとき
胸をみたすのは悩みばかりだ。

II
この朝 野をゆけば
草の葉に露がしたたり
陽気なうそ鳥が語りかける
「お早う、いかがです
この世は美しいじゃありませんか
なんて素敵だ フェウ フェウ
私はすっかり気に入った」

野に咲く釣鐘草もまた
陽気に親切に挨拶する、
チンコン チンコンと鐘を振って
朝の挨拶を呼びかける。
「この世は美しいじゃありませんか
チンコン チンコン すばらしい
私はすっかり気に入った」

そして朝の陽の光をうけて
この世がいっせいにきらめきはじめ
音と色でみたまされる。
花も鳥も、大きいのも小さいのも。
お早う、この世は美しいではないか
そうだ 世界は美しいノ
いまは私のしあわせも
ひらけるだろうか？
否ノ 幸福が私のために
花咲くことなどはあり得ないノ

III
私は灼熱した刀をもっていた
私の胸の中にそれをもっていた。
いたましくもそれは
奥深くつきささっていた
すべての喜びに すべてのたのしさに
そんなにも奥深くつきささっていた。
なんとという凶悪な客であろう、
かた時も休まず、
かた時も憩はない。
夜となく、昼となく、
私が眠る時にさえもノ この苦しさノ

空をみあげると
私は二つの青い眼をみる。
黄ばんだ野をゆけば
私は遙かからブロンドの髪が
風にゆれているのを見る。この苦しさノ
私は夢からさめるときに
彼女の銀のような笑い声をきく。
私は黒い棺の中に臥して
二度とこの眼をひらかずにいたいノ

IV
いとしいひとの青いひとみは
私をひろい世の中に追い立てた。
いまはなによりも愛する場所を
私は離れなければならない。
おお青い瞳よ
何故に私をみつめるのか？
悩みと歎きは
とわに私のものだノ
私はしずかな夜の中を
暗いひろ野へ旅立ってゆく
私にさようならをいう者もなく—
私の道づれは愛と悩みだノ

道ばたに 一本の菩提樹が立ち
私ははじめて眠りの中に憩った
菩提樹の枝のもとでノ
菩提樹は私の上に
花を雪と降らせ
私は人の世のことを忘れた。
みんなふたたびよい人となり
みんなふたたびよいものとなり
みんなみんな、愛も悩みも
この世も夢も、よいものばかりだったノ

「DIE TAGESZEITEN」

「DIE TAGESZEITEN」

リヒアルト・シュトラウス（1864～1949）は、「バラの騎士」「サロメ」「ナキソス島のアリアドネ」「エレクトラ」などのオペラや「ドン・ファン」「ティル・オイレンシュピーゲル」「英雄の生涯」などの作曲家として誰知らぬ者はない後期ロマン派の大家であるが、合唱音楽の分野での作品は、それほど知られていない。若い時代に書いたゲーテの詩による「さすらい人の嵐の歌」という6声部合唱とオーケストラの作品や、2セットの男声合唱曲集、それと16声部のための「ドイツ・モテット」などが作品表からひろい出せるにしても、演奏の機会に出会うことはない。私も、無伴奏男声合唱曲の作品42と作品45の楽譜は以前から所有していたが、音域の広さに恐れをなして演奏しようと思ったことがなかった。DIE TAGESZEITENにしても、アイヒェンドルフの詩による男声合唱とオーケストラのための曲として、皆川達夫氏著の「合唱音楽の歴史」に記載されていたのを承知していただけであった。ケネス・ロバーツという人が編集した「二十世紀の男声合唱曲のチェック・リスト」という小冊にも、この曲は記載されている。その記述によると、リヒアルト・シュトラウスは多数の男声合唱曲を作曲したが、そのほとんどは第二次世界大戦後、絶版になっているそうである。DIE TAGESZEITENは今日入手できる、ほとんど唯一のまとまった作品であるという。

“DIE TAGESZEITEN”——「一日」と訳すのはいかにも素っ気ない。英語訳は“The Times of Day”となっている——を日本に紹介したのは、関屋晋氏指揮の松原混声合唱団と湘南市民コールの男声部合同合唱団で、1976年の「知られざる名曲・演奏会」でまず「朝」「夕」「夜」の3曲が演奏され、やがて両合唱団のジョイント・コンサートで全4曲が公開された。リヒアルト・シュトラウスの男声合唱曲は、日本の男声合唱団では、技術的

に上演が不能と決めこんでいた私の固定観念を打ち破ってくれたのが、関屋晋氏である。当時の事情からいって当然のことだったが、関屋氏の上演は、ピアノ伴奏によるものであった。しかし、オーケストラ・スコアを見てみると、このリヒアルト・シュトラウスにとっての晩年の作品は、作曲者のオーケストラ書法が円熟の極に達していて、到底、ピアノに編曲することは不可能な音楽として完成されている。オーケストラによる完全な演奏を実現したいというのが、私の願望になった。幸運なことに、1977年、早稲田大学グリークラブの定期演奏会で、東京交響楽団の共演によって、オリジナルな形での日本初演をはたすことができた。オリジナルな形での演奏に追いつく上演法は存在しないように思えたが、その後、日本の多くの男声合唱団が、オーケストラ——それはかなり大編成のものを必要とする——と共演できないという理由で、この古今東西の男声合唱曲中、第一級と思われる“名作”をうたうことはおろか、知ることもしないというのには、これもまた大変残念なことのように思えてきた。自分が実際にオーケストラのサウンドを耳にした上で、オーケストラ・スコアをピアノ二台に編曲することで、この曲の演奏の機会の拡大が得られればと、困難は承知で作業にとりかかったのである。

アイヒェンドルフの詩は、晴ればれしい活気あふれる朝。昼のけだるい休息。夕刻のやせ疲れた不安定なざわめき。夜の美しさと静けさ。そうした、誰の心にもパーフェクトな共感を得られる現代的な内容である。シュトラウスの音楽は、簡然するところのない作曲技法を用いて、それぞれの感情を、見事に描ききっている。オリジナルの男声合唱曲の乏しい現状に、今回の試みが、プラスの効果を持つことができれば、こんなに嬉しいことはない。

福永陽一郎

福永陽一郎

メッセージ

東西四大学の合唱音楽会に関係して、やがて30年が来ようとしている。この音楽会の歴史は、日本の合唱音楽の歴史であり、私の合唱指揮者としての歴史でもある。その間、かなりの回数、同志社グリークラブを指揮してきた。思いおこすと、「ショスタコヴィッチの『十の詩曲』による六つの男声合唱曲」や、「リヒアルト・シュトラウスの愛の詩集」最小の編成でやった「三つの抒情・男声版」など、多くの思い出のステージを残してこれたのは幸運だった。今回は、本当ならばオーケストラで上演しないと真価が発揮できないと思われる曲目の、

ひとつの可能性の追及である。考えてみれば、過去の同志社グリークラブと私との“四連ステージ”で、強い印象として残っているものは、みんな、その時点での、不可能への挑戦であったように思う。さきにあげた曲目でも、まずは常識をはみだした試みである。それだけに、成功したときの歓喜は大きい。今年の同志社グリーは、まずは好調の波に乗っているので、必ずや、何かを為しとげたいものと願っている。聴いて下さる方々にとっても、音楽の歓びのひとつとなるような演奏にしたいものである。

男声合唱とオルガンのための「ミサ曲」ハ短調

「ミサ曲ハ短調」について
ヨーロッパ人とも呼ぶことの出来るフランツ・リストは、1811年10月22日、現在のハンガリー西方、オーストリアの国境近くにあるエーデンブルク県のアイゼンシュタットに近いライディンクと言う小さい町に生まれた。10才の時、ツェルニー（1791～1857）とサリエリ（1750～1825）にピアノを習いはじめる。ツェルニーはベートーヴェンの古い弟子で、その教えを受継いでいたので、リストがベートーヴェンの影響を受けたと考えるのは当然のことであろう。リストは真摯なキリスト教徒であった。その上彼は深い信仰心を持っていた。そうして彼は、彼自身の伝統的でありながら同時に革新的な個性によって、素晴らしい古典主義の基盤に培われた音楽を作るのである。又、オルガン奏者として、彼ほどヨハン・セバスティアン・バッハの貢献の真価を認めた者はなく、又それを活用した者も無かっただろう。リストの多くの宗教作品は、バッハを礎石として生まれたもので、この礎石は、当時の華やかなロマン主義の音楽に直面しながらも、均衡、節度、調和の統一性を維持するのに大きな役割りを果している。リストの音楽活動は、先ず演奏活動から始まったのであるが、特に彼がヨーロッパ人と呼ばれているように、彼は全ヨーロッパを舞台に、巨匠として活躍した1838年（27才）ころから1848年までの10年間は、ピアノのヴィルトゥオーゾとして、まことに華々しいものがあつた。しかし、1848年1月24日、ヴァイマルへオペラの指揮をする為に立ったリストは、はからずも、ヴァイマルに居をかまえる事になってしまう。そうして、ヴァイマルでのリストの音楽生活のうちで最も重要なものは、先ずワーグナーの作品をくり返し上演したことである。次に、ベルリオーズの作品を取り上げて、これを演奏した事である。オペラの上演やオーケストラの指揮の他は創作活動に集中しなければならなくなって、自分のピアノ演奏活動や演奏旅行は考えられなくなってしまうのである。ヴァイマルで常にオーケストラと共に仕事をつづけたことが、彼に交響的な作品を生みさせることになったのであるが、それと同時に、宗教的音楽創作への努力をも開始させることになったのである。リストは、芸術的創造を行うことの出来るのは僧職であると信じていた。だから、神と人間との間に立つ僧侶としての芸術的人間になることが其の理想であつた。彼は此の理想を、その広大な対社会的音楽活動の実践によって示そうとしたものである。その為に彼は、1855年、聖フランチェスコ第3回に入った。そうして1869年には、かねてからの望みであつた僧侶の職を得て、黒の僧衣をまとうことが出来たのである。偕て、リストは、ヴァイマルに出発する2年前の1846年に2曲の宗教合唱曲を書いてフランチェスコ教団の神父アルバッハに献じている。いずれもオルガンを伴奏としたもので、混声合唱の「アヴェ・マリア」と男声合唱の「主の祈り」である。

今日演奏する男声合唱の「ミサ曲ハ短調」は、1848年の作曲になるもので、リストが同年1月にヴァイマルに移ったことから考えると、同じようにフランチェスコ教団の神父アルバッハに献じられた此の男声合唱の「ミサ曲」はヴァイマルに於いて作曲が完成したと見ることが出来る。この「ミサ曲」は、1869年になって改作されているのだが、この「ミサ曲」にもとづいて1877年「ミサ・プロ・オルガン」と言うオルガン曲が作曲されていることも興味の深いことである。先にも述べたが、ワーグナー（1813～1883）ショパン（1810～1849）シューマン（1810～1856）等とほぼ同年代にあつて、リスト（1811～1886）は、ロマン派音楽の最も華やかな渦のまただ中にあつたにもかかわらず、彼の此の「ミサ曲」は、模式的にはバレストリーナの作風に近づいて、中世風の動機を基礎にして作曲されている。しかしリストは、それらを短3度の進行と積み重ねによる減7の和音や、エンハーモニック転調等で独特の発展を試み、しかも、それらの均衡と調和を巧みに計り、見事に成功させている。此の男声合唱の「ミサ曲ハ短調」から我々は、リストの理想とした、神と人間との中間に立つ僧侶である芸術家の姿勢の片鱗をうかがうことが出来るだろう。

Kyrie

主よ、あわれみたまえ。キリストよ、あわれみたまえ。主よ、あわれみたまえ。
三つにわけて3回ずつ唱えられるこの祈りは、三位一体なる神、すなわち父、子、御霊の神にあわれみを請うものであり、ミサの楽曲にはめずらしくギリシャ語になっている。

Gloria

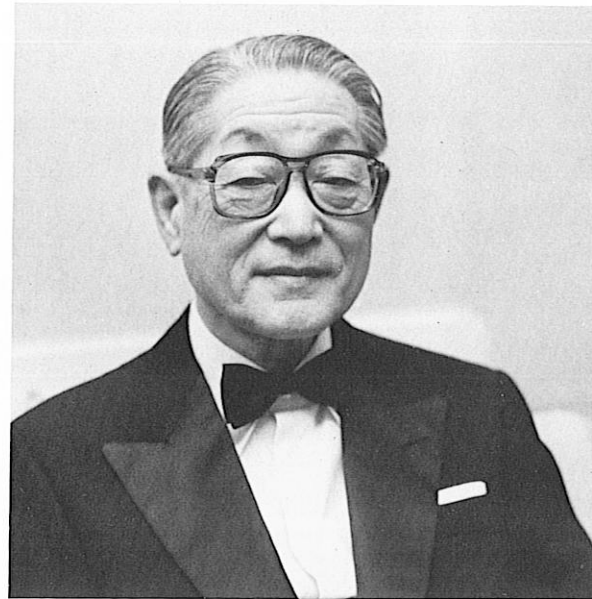
天においては神に栄えあれ、地においては善意の人に平安あれ……
キリエが終わるとミサにおいては司祭が「天のいと高きところには神に栄光あれ」と先唱し、会衆あるいは聖歌隊が応答する。キリエの嘆願にひきついて歌われるこの讃歌は、救い、あわれみにあずかった者の神にささげる栄光の讃歌にふさわしい。

Credo

われは唯一の神を信ず。すなわち全能の父、天地とすべて見ゆる物と見えざる物とのつくり主、と始まるこの信経は、聖教者の奉読と読経にひきつづき、それに対する応答的信仰宣言として歌われる。この信教は最初はミサのためのものではなかった。それは「われは信ず」という個人的な信仰告白という形をとっていることからもうかがえる。一般に「ニケーア・コンスタンチノーブル信経」といわれているように、この二つの公会議で確認された信仰的箇条よりなっているのであるが、この信教そのものは、その二つの公会議の中間に作られ、451年のカルケドン公会議で承認、採用されたものである。内容としては、神の唯一性、キリストの神性、受肉と受難、復活と再臨、聖霊の力、教会の権威、来世のいのちにわたっており、この時代の異端との闘いの中における教会の宣言として、力強いひびきをもっている。

第29回東西四大学合唱演奏会に寄せて

東西四大学合唱演奏会が、今回第29回を数えることになったと聞いて、この演奏会の始まった頃の事を思い浮かべながら、其の見事な発展振りを思いあわせて、誠に感慨無量であります。私が第5回の演奏会で合同演奏の指揮をさせてもらってからでも、もう25年の経過を見ているわけで、其の間に於ける東西の合唱技術の交流と進展は、この演奏会の意義と成果を充分に物語っています。



林雄一郎

しかも、四つの大学の各々が、それぞれの個性を磨き上げて、今日の四大学合唱団を創り上げて来た点には、最高の敬意を払わなければならないと思っています。東西四大学は、選ばれてニューヨークのリンカーンセンターに出演した、文字通り日本の代表的大学男声合唱団であります。今後共、益々協力しながら切磋琢磨の実を上げられるよう、そうして更に、世界の合唱界の為に大きく活躍されることを祈ってやみません。

大正元年、大阪船場に生まれる。昭和5年、関西学院高等商業学部に入學。在学中、グリークラブ指揮者として活躍。グリークラブを合唱コンクール初優勝へと導く。卒業後、新月会、NHK大阪放送合唱団、ABC放送合唱団、天理教音楽研究会合唱団などの指導、昭和40年9月にニューヨーク、リンカーンセンターで開催された第一回世界大学合唱祭をはじめとする数回にわたる海外演奏旅行など幅広い活躍を示す。山田耕筈氏に師事。現在、芦屋大学教授、芦屋女子短大教授、関西合唱連盟副会長、新月会会長。今年、合唱生活50年を迎えた。

オルガン伴奏 岡安早苗

相愛女子大学音楽学部卒業。井口基成、井口愛子、矢田映子諸氏に師事。現在、二期会関西支部伴奏者、相愛高校音楽科講師として活躍。

でっかい大自然の中の夏休み

ローハイド牧場とナッツベリーファームディズニーランドの旅

旅行期間：7月26日(土)～8月11日(月)17日間

¥378,000(11才まで)

¥438,000(12才以上)

カナディアン・ロッキーキャンピングアドベンチャー

出発日：7月17日(木)・24日(木)・25日(金)・29日(火)・31日(木)

8月1日(金)・5日(火)・7日(木)・8日(金)・12日(火)・14日(木)・21日(木)

¥344,000

旅行のお問合せ、お申込みは

運輸大臣登録一般旅行業第75号



富士海外旅行株式会社

電話345-1281(代) 大阪市北区堂島浜2-1-40(サントリービル) 郵便番号530

担当：川端雅章

祇園で★乾杯!

☆仲間がよれば
GION HOTEL でビアパーティー

★★★★★ MENU ★★★★★

A ■お1人様 3,000円
生ビール中2杯。
串かつ、ウィンナー、やきぶた、
シューマイ、野菜サラダ、枝豆、おつまみ、
フライポテト、スペシャル料理

B ■お1人様 3,500円
生ビール大1杯、中1杯。
串かつ、ウィンナー、やきぶた
シューマイ、チキン唐あげ、野菜サラダ、
枝豆、おつまみ、フライポテト、
スペシャル料理

C ジンギスカンセット
■お1人様 3,500円
生ビール大1杯、中1杯。
ジンギスカン鍋、枝豆、おつまみ、
フライポテト、野菜サラダ、スペシャル料理

※その他ご予算に応じて各種ご用意させていただきます。

◎営業時間 PM5:30 PM9:00 土曜日9:30まで

◎期間 5月9日～9月7日(8/16は大文字送り火のため休業)

「京のこころにふれる」

京都祇園ホテル

京都・祇園石段下

●ご予約専用TEL

075-551-2111 (内線109番)

宝焼酎
純
宝酒造株式会社



●ソフト20度新発売●

時代が変わればロックも変わる。

純ロック・ジャパン

デビッド・ボウイのロックのように。ニューエイジのロック、「純」ロック・ジャパン——
日本の透明な精神をたたえた「純」のオンザロック。名づけてジャパン「純」ソフト20度新発売。



NAKAI SHOKAI

**ART
PRINTINGS**

企画から制作までの総合印刷

株式会社 **中井商会**

大阪市東区北久太郎町1・14
Tel. 06-261-8640



東西四大学合唱演奏会も、今回で29回を数えることになりました。毎年この四連の時期が近づきますと、7月の試験を目前にして、いつもは眠そうな目をしたワグネリアンも、女子大生談議に花を咲かせるといった光景は消え失せ、目をつり上げて複写機のお世話になる毎日となるのであります。そして、試験という共通の敵の下、日頃から鍛えた相互扶助の精神と男の友情が深められるのです。このステージに向けて重ねられた猛練習に加えて、再確認された結束力が、必ずやこの晴れの四連のステージを成功に導いてくれることと確信しております。

さて、慶應義塾ワグネル・ソサィエティー男声合唱団は、明治34年の春、19世紀の偉大な作曲家リヒャルト・ワーグナーの名を冠して創立されました。翌年5月、第1回の音楽会を三田演説館で行なって以来、私達はその伝統を受け継ぎ、新たな前進を続けるべく努力し、幾重もの禍福を経て今日に至りました。昭和44年春、ニューヨークのリンカーンセンターで開催された第2回世界大学合唱祭に日本代表として参加、昭和50年5月には、二期会オペラ「学生王子」に出演する機会に恵まれました。昭和52年7月には、ウィーン青少年音

楽祭参加及びスイス・オーストリア・西ドイツ演奏旅行、9月に、私達のクラブの誇る大先輩、ダーク・ダックスとのジョイント・コンサート、そして昨年9月には、木下保先生の喜寿祝賀演奏会を、日本女子大学合唱団・聖心女子大学グリークラブと共に開催しました。

ワグネルライフの一年は、定期演奏会、東京六大学合唱連盟定期演奏会、早慶交歓演奏会、春夏の演奏旅行、レコーディング、テレビ出演、そしてこの東西四大学合唱演奏会等多忙ながら充実した活動を行なっています。このような幅広い活動ができますのも、木下保、畑中良輔、大久保昭男の三先生をはじめ、三浦洋一、北村協一、福永陽一郎諸先生方の常に変わらぬワグネルに対する暖かい御指導の賜にほかなりません。慶應義塾ワグネル・ソサィエティー男声合唱団は、今年、創立80周年を迎えます。11月30日には、当大阪フェスティバルホールに於いて、第105回記念定期演奏会を開催し、ワグネルの歴史に新たな1ページを付け加えるべく努力していくつもりでございます。今後とも私達ワグネルに対する皆様の御遠慮のない御批判と、変わらぬ御声援を御願い致します。

顧問 村田武雄・千種義人・福岡正夫 部長 神谷傳造 顧問指揮者 木下保 専任指揮者 畑中良輔

ヴォイス・トレーナー 大久保昭男

TOP TENOR

安藤 寿康(文4)湘南
千住 貞裕(政4)川越
中本富士雄(文4)呉三津田
山岸 豊生(経4)東海
及川 岳彦(法3)水沢
加治木正道(経3)浜松西
高野 宏之(経3)福島
中原 裕幸(商3)熊本
中屋 一臣(商3)金沢泉丘
野城 充生(商3)佐野
是枝 晃(経2)慶應
田嶋 克介(経2)慶應
都留 俊輔(経2)戸山
中川 暢(経2)慶應
中島 隆信(経2)栄光学園

SECOND TENOR

大村 元(経4)慶應
野口 潤(商4)生野
藤尾 和巳(文4)私立城北
真野 啓久(政4)名大附
吉住 泰広(政4)聖光学院
麻布 明徳(法3)三重高田
荒川 将臣(法3)私立城北
大瀬 雅之(商3)藤島
尾沢 仁(法3)横須賀
岡本 泰志(工3)倉敷天城
斎藤 覚(工3)松山東
真島 秀樹(法3)長野
米原 保美(商3)倉吉東
氏平 治(法2)岡山芳泉
鷹簗 伸一(商2)日比谷
野本 享史(経2)足利
畠山紳一郎(工2)函館ラサール
早川 毅(商2)慶應

BARITONE

阿波田 尚(工4)慶應
今田 哲郎(文4)戸山
小林三十四(商4)洲本
井戸 和彦(商3)名大附
小川 研一(経3)修猷館
久保田裕二(政3)前橋
近藤 達夫(工3)修道
戸崎 隆介(工3)函館ラサール
森泉 弘一(工3)高崎
遠藤 哲(工2)函館ラサール
桑田 一徳(政2)光陵
田村 雄司(経2)私立市川
飛川 竜哉(文2)芝
長尾 雄平(商2)西宮北
中田 芳男(商2)芝
中嶋 晃(経2)防府
柳原 正光(政2)慶應

BASS

後藤 清文(政4)鹿屋
塩野 正敏(商4)小石川
高山 信之(文4)横浜翠嵐
藤倉 雄一(文4)佐野
穴沢 修一(商3)会津
梅田 正行(政3)多摩
奥田 直人(政3)洛東
重富 公生(経3)伊万里
松本 一夫(文3)宇都宮
渡辺 敏(工3)愛知教大附
小沢 政寿(経2)甲府南
尾澤 誠人(法2)平塚江南
須田 和宏(法2)慶應
成田 洋平(政2)光陵
原田 洋介(商2)平塚江南
船橋 博隆(政2)川越
築田 謙治(経2)星陵

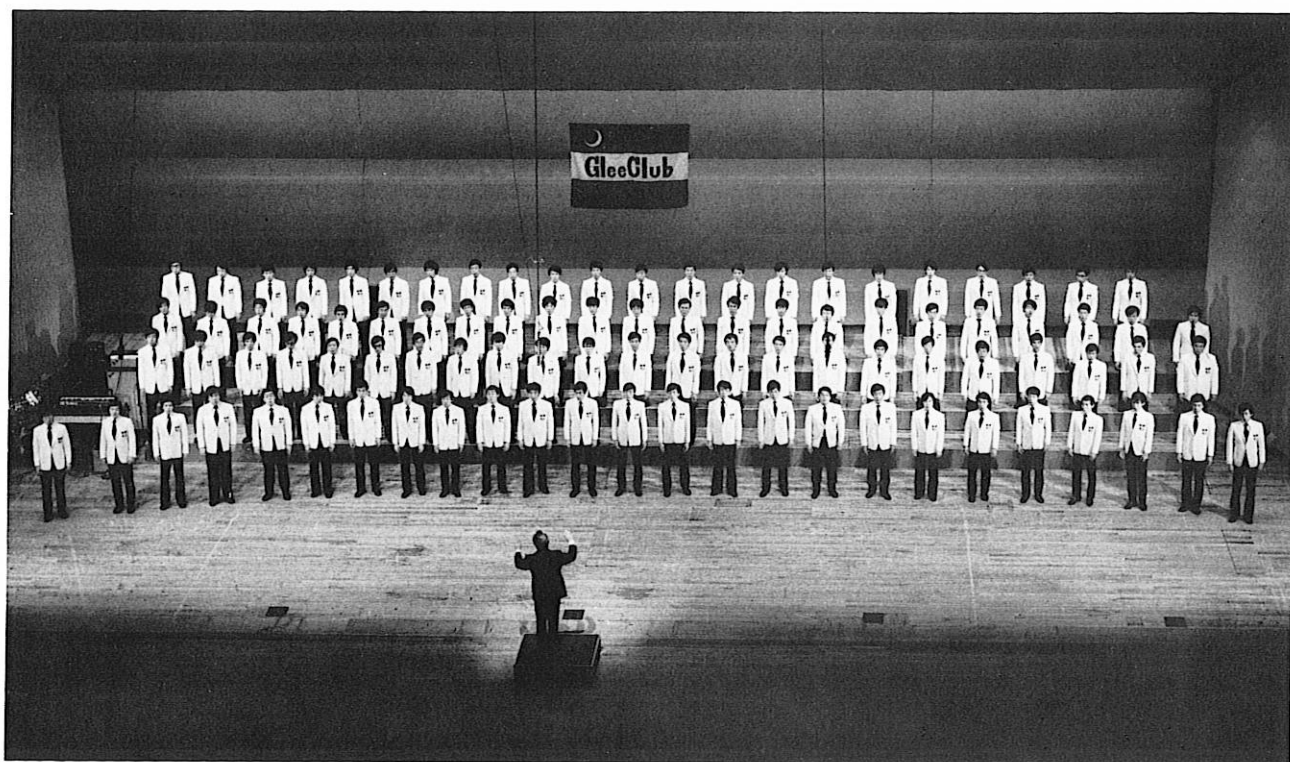
ホルン 伴奏

今回の「JAGD LIEDER」では、桐朋学園ホルン協会メンバー4名に、武蔵野音楽大学卒業生に加わっていただき、ホルンの伴奏をお願い致しました。メンバー紹介
古田耕造 松本浩 小谷宏一郎 桜井広一 古田榎幸



左上から、桜井広一、松本浩

左下から、古田耕造、古田榎幸、小谷宏一郎



関西学院は1889年の秋、緑なす六甲の山並を背に、波静かな瀬戸内海を眼下に見下ろす高台、美しく静かな環境に恵まれた神戸原田の森に産声をあげました。しかし、創立当時は農家が僅か40戸足らず、孤が夜な夜な軒を縫って泣き叫ぶ寥々たる地であったとききます。キリスト教精神に基づく学院には、当初より必然的に礼拝における讃美歌があり、音楽が附随していたのです。

1896年6月に行われた卒業式の際、4名の学生によって讃美歌“God be with you till we meet again”という別れの歌が歌われましたが、これが公の席で歌われた最初のもので、外人宣教師夫人の指導によるものでした。

1896年以来、毎年1回英語会が催されていましたが、1899年そのプログラムの中に合唱を入れようということになり、正式に合唱団が組織され、当時院長であった故吉岡博士によって“GLEE CLUB”と名付けられたのでした。これが現在の関西学院グリークラブの始まりであり、日本最初のものとなって現在に至っているのです。この英語会に初めてグリークラブとして合唱した曲は、現在なお歌い続けられている College Song “Old Kwansei”でした。

以来グリークラブは、恵まれた学院の宗教的雰囲気と内外の温かい御指導、そして何よりも歌うことの好き

な幾多の先輩達によって学院建学の精神に沿って育まれ、成長への礎を固められ、明治から大正、そして大正から昭和へと着々と発展し続け、81年間男声合唱のよきハーモニーを維持して参りました。その間、山田耕筈、津川主一、由木康、林雄一郎、北村協一等の我々の誇りとする大先輩を生み出しました。

この長く輝かしい歴史を支えてきたものは何であったかと考えますに、多くの先輩方の合唱への情熱はもちろんのこと、「メンタルハーモニー」の精神ではなかったかと思うのです。学生合唱団というのは、4年間しか在籍することができないために、一つの確固たる形体を維持していくことが容易でないという宿命をもっています。しかし、「メンタルハーモニー」と合唱に対する真摯な態度は、決して変わることなく連綿と受け継がれているのです。しかも、それは黙っていても与えられるものではなく、部員一人一人が努力することなしにはかち得ないものだということを私達は忘れてはならないと思います。

私達は今後とも、グリークラブホールという恵まれた環境の中で、その幸せをかみしめながら、日々の練習に励み、より魂のこもった音楽をめざすべく、林雄一郎先生、北村協一先生、大久保昭男先生等の諸先生方の御指導のもとに、たゆみない努力を重ねていくつもりでございます。

顧問 今田寛 技術顧問 林雄一郎 常任指揮者 北村協一 ヴォイス・トレーナー 大久保昭男

TOP TENOR

三ツ井弘次（法4）大聖寺
西村 尚司（理4）上野
佐藤 浩（経4）大手前
渡辺 道夫（社4）清水谷
神田 裕史（法4）県立芦屋
塩見 和也（商4）福知山
角野 一雄（経4）岡山関西
西村 紀彦（法3）南山
島 泰幸（法3）仙台第三
谷 重樹（経3）初芝
渡辺 正樹（商3）宝塚東
藤原 肇（商3）夕陽丘
堀 伸夫（経3）関西学院
坂口 和彦（理2）北野
河田 勝（社2）旭
竹中 俊也（経2）関西学院
山田 雅浩（社2）足羽

SECOND TENOR

今西 章（法4）加古川東
本郷 尚（法4）岡山関西
泊 雄一郎（社4）池田
打田 徹治（経4）四日市南
嫁兼 弘純（経4）堀川
堤 守（経4）茨木
麻野 進（文3）鳳
木田 雅夫（経3）関西学院
秋田 淳滋（文3）上宮
河本 晴光（経3）関西学院
中山 順喜（法3）布施
廣瀬 康（商3）千里
山本 哲也（商2）報徳学園
三野 和彦（社2）新居浜西
中島 勝美（法2）柳井
高村 哲夫（商2）岡山朝日
沢 剛（法2）立命館
北村 勲（商2）八鹿

BARITONE

大田 薫（社4）神戸
竹中 寛（理4）阪南
田中 明彦（理4）東郷
日下部 聡（経4）姫路西
白井 敏則（法4）枚方
永久 浩（商4）府中
榎並 正純（文4）上宮
広沢 茂（商4）広島舟入
伊藤 裕之（経3）甲陽学院
井上 登（商3）上宮
奥村 一雄（経3）関西学院
中永 毅（社3）市立尼崎
和田 直也（法3）枚方
早藤 学（法3）関西学院
岡本 拓也（法2）関西学院
松下 浩和（文2）上宮
山本 義和（法2）鳳
伊藤 雅之（経2）阿倍野
間所 俊夫（経2）丹生
野坂 哲夫（法2）泉陽

BASS

小田原拓也（経4）春日丘
土田 邦和（法4）柏原
和田 龍士（法4）西宮北
杉平 英二（社4）関西学院
山尾 憲司（商4）大阪学院
徳広 晃一（商4）嵯峨野
加納 真一（商4）県立西宮
木村 克也（社3）住吉
西村 直人（経3）星陵
宮川 澄雄（法3）長野
中村 司（商3）山城
橋田 宏介（法3）土佐
山田 真也（経2）名古屋北
寺田 裕之（経2）住吉
石田 一郎（法2）桃山学院
近藤 広行（法2）赤穂
川崎 智文（社2）小豆島



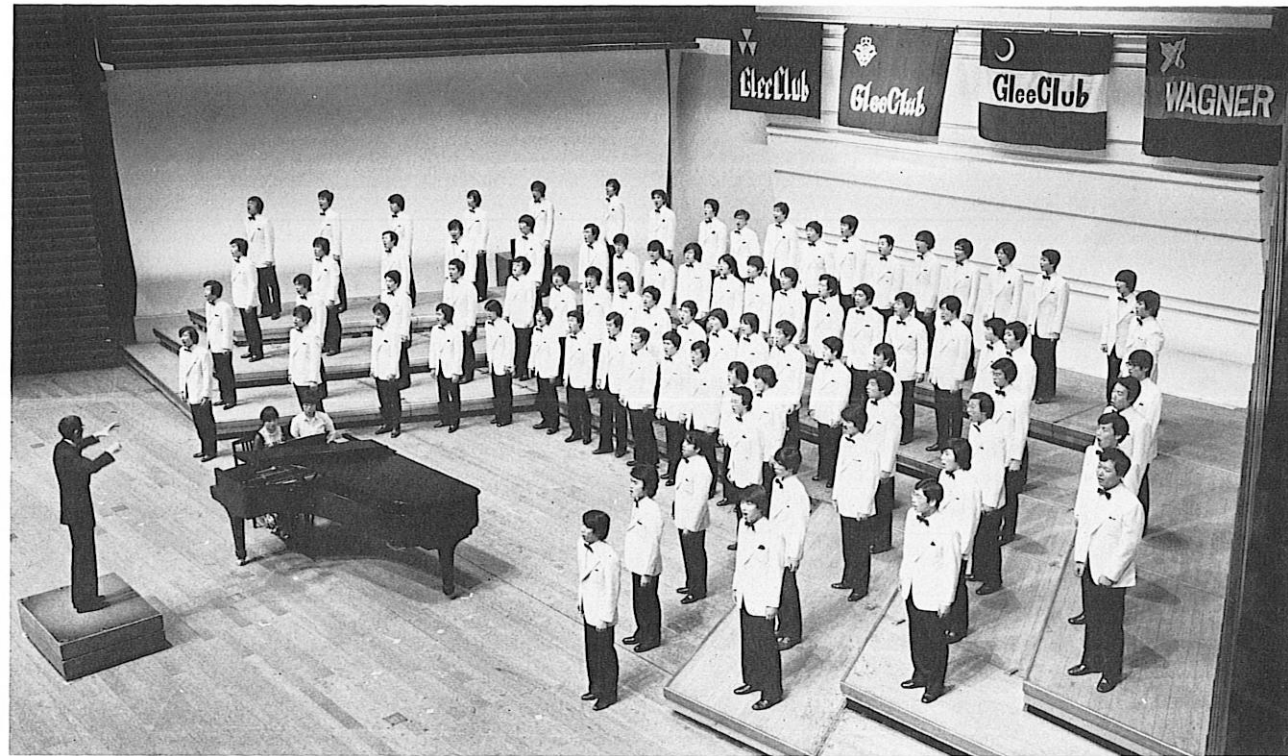
ピアノ伴奏 浅井康子

大阪音楽大学ピアノ科卒業。同大学院修了。現在同大学講師。大阪フィル青少年コンサート、堺市民音楽祭で大フィルと協演。第1回モーツァルト協奏曲のタペ出演。その他リサイタルの伴奏。



ピアノ伴奏 戎洋子

相愛女子大学ピアノ科卒業。二期会関西支部、関西歌劇団、東京オペラ・プロデュースなどのオペラ伴奏の他、NHK「タペのリサイタル」「朝のコーラス」などに出演。歌や器楽のリサイタルの伴奏で活躍中。大阪府民劇場奨励賞受賞。相愛女子大学講師。



「歌が酒とともにあるとすれば、早稲田の杜に歌声が初めてこたましたのは、大学の隣りに飲み屋ができた日ということになり、歌が涙とともにあるとすれば、それは目白に女子大ができた日であろう。」このような冗談とも真実ともつかないような珍説に彩られてきた早稲田大学グリークラブ創立の謎は、正式な活動記録が見つからないまま、未だもって霧に包まれています。しかし、明治40年にその前身と思われる、早稲田大学音楽部声学部第1回演奏会が開かれ、その年に作られたばかりの「都の西北」が演奏されたという記録が残されており、それから数えると早稲田グリーは今年で73年目を迎えることになります。この長きに渡る伝統を培い育み、そして現在の早稲田グリーを支えているのは、磯部倅、岡村喬生、ボニージャックス諸氏をはじめとする先輩諸兄のお力であることを、私達は忘れることができません。この歴史と伝統、そして新しい早稲田グリーの歴史の1ページを担う誇りを胸に、私達は常にベストの演奏を目指して日々の練習に励んでおります。

早稲田グリーの1年は、12月の定期演奏会終了の瞬間にスタートします。そして前期には、2年生以上のメンバーで送別・東京六大学・早慶交歓・東西四大学の各演奏会を軸に演奏活動を行い、一方では新入生指導を行って後期に備えます。夏休みには演奏旅行で日本各地を回り、9月以降の後期には新入生を加え総勢100名の大所帯で定期演奏会へと活動の指針を向けて行き

ます。またその他にも隔年の早稲田フロイデ・ハルモニ―や年末の都響・東響などの「第九」出演など特徴ある演奏活動を続けています。海外との交流も盛んで、昨夏は1ヶ月間にわたるヨーロッパ演奏旅行を経験し、今年6月28日には、プリンストン大学とのジョイント・コンサートを予定しています。

さて、早稲田大学グリークラブの常任指揮者は、ここ数年の間空席になっている事を御存知の方も多いと思います。この四大学の中でもとりわけ容姿の点で音楽とは無縁の私達にとって、これは大きなハンディです。しかし小林研一郎先生、福永陽一郎先生の厳しくも暖かい御指導を受けることのできる私達にとっては、最早「ハンディ」という意識は消え、逆に、両先生を始めとする多くの先生方の音楽に触れるチャンスに恵まれることを、ひとつのメリットとして、より広いレパートリーに対して常に「挑戦」を心がけているのです。また今年より、長年お世話になった鹿野道男先生から早稲田グリーのOBでもある山本健二先生へとヴォイス・トレーナーがバトンタッチされました。今宵は文字通りの「新生早稲田グリー」がドイツ・リートに挑戦致します。

今宵、小林先生の緊迫感溢れる棒によって私達の情熱がどれほど引き出され、ステージ上でほとばしることができるか、どうぞ御遠慮ない御批判をお願い致します。

会長 上田稔 顧問 磯部倅 指揮者 小林研一郎 指揮者 福永陽一郎 ヴォイス・トレーナー 山本健二

TOP TENOR

伊奈 秀史(一文4)岡崎
井上 靖夫(政経4)小倉
梳島 幹(一文4)早実
刈部 俊一(社 4)古河三
小林 晃(教 4)会津
小林 淳(社 4)小千谷
南部 孝幸(一文4)札幌東
荒川 勝男(商 3)立川
大河原敬雄(教 3)木更津
金子 真(一文3)熊本
熊谷 公志(政経3)御影
高瀬 伸明(理 3)小野
平田 耕造(一文3)高松一
泉沢 信哉(社 2)館林
大越 智(理 2)会津
沖本 憲嗣(商 2)斐太
小沢 直樹(一文2)菊里
目黒 弘嗣(一文2)会津
渡部 宏夫(法 2)会津

SECOND TENOR

川口 宏(社 4)町田
塚田 俊彦(法 4)飯田
寺嶋 常文(一文4)水戸一
益富 晃一(教 4)勝田
柳橋三千雄(教 4)水戸一
吉田 源三(政経4)川越
吉田 秀一(社 4)白河
安宅 望(一文3)久留米西
大場 肇(商 3)井草
峰尾 義徳(政経3)山手学院
山本 正洋(教 3)熱田
赤塚 明俊(社 2)墨田川
加藤 康聡(理 2)名古屋北
小林 達夫(二文2)新城
武熊 聡(商 2)三鷹
正木 一弘(一文2)川越
室井 隆(教 2)三田

BARITONE

市原 浩二(政経4)船橋
岩立 晴美(理 4)市立銚子
加藤 久雄(商 4)早実
川窪 洋(商 4)立川
菊地 隆一(教 4)浦和西
仁科 正夫(商 4)惟信
平賀 英彦(法 4)横浜翠嵐
井口 肇(政経3)宇都宮
岩崎 稜(理 3)札幌東
栗川 治(一文3)新潟
上妻 利博(教 3)済々黌
佐山 典昭(一文3)長野吉田
船木 元(一文3)都立武蔵
青木 浩一(一文2)小金
佐渡谷信寛(社 2)鎌倉学園
重岡 哲郎(教 2)大洲
渡辺 茂孝(一文2)上田東

BASS

片貝 昭史(理 4)前橋
川元 啓司(政経4)札幌南
水野 正之(商 4)追浜
安井 俊正(政経4)淳心学院
箭内 好彦(商 4)安積
山田 敏之(理 4)千種
渡邊 康行(理 4)磐城
足立 心一(教 3)多摩
阿部 滋(理 3)国府台
内田 直義(一文3)佐賀西
金沢 裕之(社 3)小岩
都築 正靖(政経3)丸亀
坪井 達也(政経3)別府鶴見丘
松岡 義行(社 3)盛岡一
宮本 賢一(教 3)盛岡一
森田 昌宏(法 3)八王子
岩淵 靖宏(二文2)一関二
河野 弘毅(教 2)茨城キリスト
常見 晃(法 2)川越
豊田 信之(教 2)新宿



ピアノ伴奏 久保晃子

昭和52年、東京音楽大学ピアノ科卒。ピアノを三宅民規、金井紀子、小林研一郎の各氏に師事。現在、二期会オペラ、東京室内歌劇場、創作オペラ協会、モーツァルト・サロン・オペラの練習ピアニスト、労音合唱団の伴奏、その他声楽家の方々の伴奏で活躍されている。



…人生は私の求めたものをすべて与えてくれた。
だが人生で一体何ができるというのかね。…

日本のチベットから、海のむこうのお国から、すぐ隣の街から、ある程度の必然性と偶然性をもって同志社にやってきた男達の、冗談や本気や気まぐれで、このクラブのメンバーは構成されています。

私達は、様々な動機でグリーを選び、様々な動機をもって合唱の世界に身を投じました。

そうであるがゆえに、私達がグリーに求めるものは各々異なっています。50名を超える別個の生活をもった人間の集まりである以上、かなり多くの時間を共にしているとはいえ、お互いに理解しあえる部分は限られているのです。

そうしたことから、部員一人一人の内に小さなわだかまりが生まれてきます。現在、クラブに何一つ不満のない人間はいないでしょう。クラブを去っていく仲間も決して少なくはないのです。

私達を直接に結びつけている合唱音楽は、私達を時に満たしてくれると同時に、その奥行き深さにとまどいを与えます。どれだけの人間が、合唱することの喜びを感じているのでしょうか。それよりも、一体私達のどれだけが真摯に音楽に対していえるのでしょうか。

一個の人間として、また一人の合唱を志す者としての私達の前には、決して好ましくない状況が存在しているのです。

しかし、そうした現実立ち向かうことなしに流れに身をまかそうとしているのが現状でしょう。それだけでなく、自己の貴重な時のかなり大きな部分をクラブに費やしているのですから。自己の小さな世界を大切にしたいがために、そうしたことから逃避していくのは自然な成り行きなのでしょう。私達をそうした方向に走らせるほどには、グリーの現状は、私達を脅かしてはいないのですから。

ただ、私達の多くが、心の奥深くで静かにグリークラブを見つめる時、どこかやさしさにあふれたようなものに包まれると思うのです。何年か後に、恐らくそれほど不幸でもないかわりにそれほど幸せでもないであろう私達がグリーライフをふり返る時、そこに何かあたたかい自らの青春のようなものを見いだすと思うのです。

私達は、合唱を愛していますし、それが真に望ましい姿を見せてはいなくても、グリーを愛しているのですから。

…私は、そんな言葉にはごまかされはしない。…

名誉顧問 片桐哲 顧問 遠藤彰 技術顧問 福永陽一郎 指揮者 富岡健 ヴォイス・トレーナー 大久保昭男

TOP TENOR

荒井 宏之(法4)崇徳
出水 淑郎(法4)四条畷
池尻 隆弘(商4)同志社香里
小林 志伸(工4)三刀屋
中津 好雄(経4)飯田
鈴木 恒一(法4)洛東
木谷 誠(神3)延岡西
宮島 寿(商3)須坂
小野 誉文(経3)岡山芳泉
畠中 達哉(法2)上宮
加古 立史(文2)宝塚
栗原 毅(商2)天王寺
梶 敏也(法2)同志社

SECOND TENOR

安藤 善朗(法4)岐阜北
楠木 潔(商4)同志社香里
中田 英之(経4)高松商
奥田 茂弘(工4)同志社香里
坂本 務(文4)宇都宮
東原 幸生(商3)函館ラサール
井ノ口光章(法3)門司
吉田 宜生(法3)同志社香里
池田 英生(経2)堀川
木村 計司(文2)桂
松井 謙之(法2)清風
田中 哲夫(文2)三条
土佐 易弘(経2)清風
上田 慎一(工2)鳳

BARITONE

赤井 文三(文4)同志社香里
福田 規秀(経4)滝
今村 幸彦(商4)筑紫丘
落合 均(経4)宇都宮
小野 英一(文4)芝
多々 清爾(工4)大阪生野
渡辺 修(商4)加納
芦田 直幸(法3)同志社香里
北尾 俊明(経3)同志社
大北 稔(法3)明星
小田垣正美(商2)生野
佐藤 隆弘(経2)大阪生野
武田 祥和(文2)巻

BASS

改正 将夫(工4)六甲
紀伊 基雄(工4)愛知中村
増田 佳昭(文4)大阪星光学院
岡崎 康高(法4)豊中
小野田 武(工4)同志社
木下 信雄(経4)同志社
笹田 泰昭(経4)長田
筒井 隆文(経3)同志社香里
前田 洋孝(商2)小山台
佐藤 敏(経2)滝川
里内 知巳(文2)膳所
高沢 隆司(文2)桜塚
薬師神重司(経2)八幡浜



ピアノ伴奏 伊吹元子

京都生れ。京都音大(現芸大)ピアノ科、専攻科卒。東真一、波多野嘉子氏に師事。伴奏のスペシャリストとして活躍。ことに合唱音楽の伴奏者としてユニークなコンサートを開き、関西合唱連盟より「長井賞奨励賞」を受賞。
現在 大谷大学講師



ピアノ伴奏 山本優子

同志社女子大学学芸学部音楽学科ピアノ専攻卒業。吉田輝子、福本俊之の両氏に師事。現在研鑽を積む一方関西のいくつかの合唱団、そして室内楽のピアニストとして活躍中。



ホルン奏者 山本昭一

1955年神戸に生れる。県立西宮高校在学中、ホルンを横井逸郎氏に師事、その後、桐朋学園大学音楽科ディプロマ・コースにて安原正幸氏に師事、1976年日本フィルハーモニー交響楽団に入団、その後、ペーター・ダム氏に影響を受ける。1980年室内楽及びソロ活動を目指し同団退団。
現在 神戸木管五重奏団リーダー



ティンパニー奏者 三島輝司

1944年京都に生れる。1961年、山高哲誠氏に師事。1962年、京都市立音楽短期大学に入学。蔵田春平氏に師事。1964年、同大学卒業後、ただちに京都市交響楽団に入団。1969年、京都市交響楽団での演奏会で、マリンバを独奏。1978年、打楽器アンサンブル、「スティックス」結成により一員となる。現在 京都市交響楽団員

東西大学合唱演奏会史

- | | |
|---|---|
| 第1回 昭和27年9月21日(日) 同志社栄光館
23日(火) 大阪産経ホール
合同演奏 長井齊 指揮
「Ave Maria」「愛でし友」 | 第16回 昭和42年6月24日(土) 東京文化会館
25日(日) 東京文化会館
合同演奏 畑中良輔 指揮
歌劇『フィディオ』より「囚人の合唱」
歌劇『さまよえるオランダ人』より
「水夫の合唱」「幽霊船の合唱」 |
| 第2回 昭和28年9月20日(日) 日本青年館(昼夜)
合同演奏 福永陽一郎 指揮
「いざ起て戦人よ」「おお美しき星よ」
「希望の島」 | 第17回 昭和43年6月22日(土) 京都府会館ホール
23日(日) 大阪フェスティバルホール
合同演奏 北村協一 指揮
「阿波折鶴文」「黙示」 |
| 第3回 昭和29年9月18日(土) 同志社栄光館
19日(日) 大阪産経ホール
合同演奏 長井齊 指揮
「Zum Gloria」「Zum Sanctus」
「秋のピエロ」 | 第18回 昭和44年6月22日(日) 東京文化会館
23日(月) 東京文化会館
合同演奏 濱田徳昭 指揮
「デュオバのミサ」より「Kyrie」
「Credo」「Agnus Dei」 |
| 第4回 昭和30年9月18日(日) 日本青年館(昼夜)
合同演奏 福永陽一郎 指揮
「Die Nacht」
シューベルト「詩篇」103篇 Wedanita | 第19回 昭和45年10月26日(月) 大阪フェスティバルホール
27日(火) 同志社大学学生会館ホール
合同演奏 福永陽一郎 指揮
男声合唱組曲「海の構図」 |
| 第5回 昭和31年9月15日(土) 宝塚大劇場
16日(日) 同志社栄光館
合同演奏 林雄一郎 指揮
「通リゃんせ」「おどりうた」「タヤけ」
「水夫の歌」 | 第20回 昭和46年6月26日(土) 東京文化会館
27日(日) 東京文化会館
合同演奏 木下保 指揮
「Hymne An Die Musik」 |
| 第6回 昭和32年6月23日(日) 日本青年館(昼夜)
合同演奏 磯部俊 指揮
「夏が来たか」と「ふるさと」 | 第21回 昭和47年7月1日(土) 京都府会館ホール
2日(日) 大阪フェスティバルホール
合同演奏 畑中良輔 指揮
歌劇『フィディオ』より「囚人の合唱」
歌劇『さまよえるオランダ人』より
「水夫の合唱」「幽霊船の合唱」 |
| 第7回 昭和33年6月21日(土) 同志社栄光館
22日(日) 大阪毎日ホール
合同演奏 D.ラーソン 指揮
「Rock my Soul」
「What kind a shoes」
「Never said a numbarin' word」
「Joshua fit de battle of Jericho」 | 第22回 昭和48年6月23日(土) 東京文化会館
24日(日) 東京文化会館
合同演奏 福永陽一郎 指揮
男声合唱組曲「海の構図」 |
| 第8回 昭和34年6月21日(日) 共立講堂(昼夜)
合同演奏 木下保 指揮
山田耕筰作品集
「待ちぼうけ」「からたちの花」
「あわて床屋」「ベチカ」 | 第23回 昭和49年6月16日(日) 大阪フェスティバルホール
17日(月) 京都府会館第一ホール
合同演奏 小林研一郎 指揮
「十の詩曲」による六つの男声合唱組曲より
「怒りの日」「鎮魂歌」「歌」 |
| 第9回 昭和35年6月25日(土) 京都府会館ホール
26日(日) 大阪フェスティバルホール
合同演奏 長井齊 指揮
「兵士の合唱」「巡礼の合唱」 | 第24回 昭和50年6月21日(土) 東京厚生年金会館大ホール(昼夜)
合同演奏 北村協一 指揮
男声合唱のための「アイヌのウボボ」 |
| 第10回 昭和36年6月17日(土) 東京文化会館
18日(日) 東京文化会館
合同演奏 木下保 指揮
「枯木と太陽の歌」 | 第25回 昭和51年6月20日(日) 大阪フェスティバルホール
21日(月) 京都府会館第二ホール
合同演奏 福永陽一郎 指揮
「歌劇タンホイザー」第3幕から |
| 第11回 昭和37年6月23日(土) 京都府会館ホール
24日(日) 大阪フェスティバルホール
合同演奏 福永陽一郎 指揮
「Listen to de Lambs」 | 第26回 昭和52年6月25日(土) 東京文化会館
26日(日) 東京厚生年金会館大ホール
合同演奏 E.ボルン 指揮
「オペラ合唱名曲集」より「僧侶の合唱」
「囚人の合唱」「巡礼の合唱」「狩人の合唱」
「水夫の合唱」「学生の合唱」 |
| 第12回 昭和38年6月22日(土) 東京文化会館
23日(日) 東京文化会館
合同演奏 木下保 指揮
「若者の歌」 | 第27回 昭和53年6月25日(日) 大阪フェスティバルホール(昼夜)
合同演奏 北村協一 指揮
男声合唱組曲「富士山」 |
| 第13回 昭和39年6月13日(土) 京都府会館ホール
14日(日) 大阪フェスティバルホール
合同演奏 北村協一 指揮
「Credo」 | 第28回 昭和54年6月24日(日) 東京文化会館
25日(月) 新宿文化センター
合同演奏 福永陽一郎 指揮
男声合唱のための組曲「蛙の歌」 |
| 第14回 昭和40年6月19日(土) 東京文化会館
20日(日) 東京文化会館
合同演奏 木下保 指揮
男声合唱のための組曲「蛙の歌」 | 第29回 昭和55年6月22日(日) 大阪フェスティバルホール(昼夜)
合同演奏 林雄一郎 指揮
男声合唱とオルガンのための「ミサ曲」ハ短調 |
| 第15回 昭和41年6月11日(土) 京都府会館ホール
12日(日) 大阪フェスティバルホール
合同演奏 福永陽一郎 指揮
「枯木と太陽の歌」 | |

立命館大学メンネルコール大阪演奏会

—賛助出演 梅花女子大学合唱団—

- | | |
|------------------------|--------------------|
| I. ロシア民謡より | |
| II. 女声合唱のための三つの抒情 | 作曲 三善晃 |
| III. Jagd lieder (狩の歌) | 作曲 Robert Schumann |
| IV. 男声合唱組曲「沙羅」 | 作曲 信時潔 |
| 指揮 柳歳一・緒方秀政・藤沢幸弘 | |

1980年7月11日(金)大阪森ノ宮ピロティホール

連絡先 立命館大学メンネルコールBOX TEL075(462)6258

創立
80周年記念

第105回定期演奏会・大阪公演

♪シベリウス歌曲集

♪JAGD LIEDER (狩の歌)

♪オペレッタ「Merry Widow」より

♪男声合唱曲「岬の墓」

♪ ?

指揮 木下保・畑中良輔・藤尾和巳

慶應義塾フグネル・ソサイエティー男声合唱団

11月31日(日)大阪フェスティバルホール

11:30 P.M.開演 全席自由 ¥800

☎0723(65)5431 野口

☎0798(52)6471 関西学院グリークラブ



¥1,250,000

HAMMOND ORGAN ハモンド・オーロラ232K

より完成されたスピネットモデル。

新発売

.....その多様性は、
ハモンドの技術の象徴。



お問合せ

株式会社 フソウ楽器

■西宮北口店・宝塚南口店・庄内店——ハモンド・ピアノ——レッスン教室併設

生徒募集中

ステージの出来映えを変えるコート

本日のステージコート
作成の店

司屋株式会社

大阪マーチャンダイズマート11階

TEL 06 (943) 3100

京の都に本場さぬきの味を……

●冷めたい桶うどん(玉子ドーフ付) **550円**



きつね**300円**

その他**250円**～

手打うどん

組合せメニュー

天ぷらうどん **600円**

(たき込ご飯付)

きつねうどん **450円**

(たき込ご飯付)

(四条河原町・セブンエイト・7F)

さぬき

TEL
075(255)3534

コンパ・宴会

あよす

京都市上京区寺町今出川上ル
電話 075-231-5121・5122

富国ビル
御堂筋
第一B.K.
安田B.K.
エーワン
5F
曾根崎センタービル
ニューサントリー5

アマチュアジャズメンによる
ハッピーな演奏と
素敵なおしゃべりを楽しむ
ホットな
ライブハウス

あなたのライブハウス
ニューサントリー5 ファイブ
大阪市北区曾根崎2-10-15 曾根崎センタービル5F
☎312-8912/314-0267

お食事処・酒房

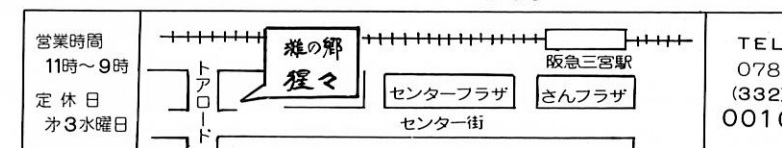
なだ さと
灘の郷

日本調ムードの落ち着いた雰囲気、おでん・焼肉、その他数多くの一品料理を低料金でご利用致しております。

焼肉処

しょう じょう
猩々

ゴージャスな山小屋風雰囲気の中、しかも低料金で素晴らしい神戸肉を味わって戴けます。



神戸市生田区三宮町2丁目センタープラザ西館B1 代表者 亀井清一郎 (昭和37年関西学院グリークラブ卒)

NM ニューミュンヘン

- | | |
|------------------------|----------------------------|
| ●本社 TEL (312) 0131 | ●貴賓室 TEL (364) 7122 |
| ●本店 TEL (311) 3381 | ●神戸大使館 TEL (391) 3656 |
| ●北大使館 TEL (312) 9151 | ●ナンバ大使館 TEL (633) 8461 |
| ●南大使館 TEL (211) 8828 | ●見本市大使館 TEL (573) 4777 |
| ●南大使館別館 TEL (211) 7248 | ●香港店日本料理大阪 TEL (九竜) 674338 |

★SAPPORO BEER HALL

ビジネス街のオアシス!!

AM. 8:00 ~ PM. 10:00

高級茶房 **白ビー**

大阪・淀屋橋・勸銀ビル

ヒット&ヒットインサマー'80/今年の貴方の夏はニュー・ミュージックで!

シックス
東芝EMI 6大ニュー・ミュージック・アーティスト

松任谷由美



●「悲しいほどお天気」に続くオリジナルLP。
作品とサウンドが一体となった近年希に見る最高傑作!!

時のないホテル

- | | |
|--------------|-------------|
| A 1) セシルの週末 | B 1) よそゆき顔で |
| 2) 時のないホテル | 2) 5 cmの向う岸 |
| 3) ミス・ロソリー | 3) コンパートメント |
| 4) 雨に消えたジョガー | 4) 火の影 |
| 5) ためらい | |

レコード ETP-90002
¥2,800
テープ ZT-28-631
¥2,800

アリス



●アリスの大ヒット曲を全て網羅した永久保存盤2枚組!!

ALICE MEMORIAL 1976~1979

- | | |
|-----------------|------------------------|
| A 1) 帰らざる日々 | B 1) さらば青春の時 |
| 2) あの日のままで | 2) 最後のアンコール |
| 3) もう二度と... | 3) 街路樹は知っていた |
| 4) 音の響き | 4) 冬の稲妻 |
| 5) 夏の終りに | 5) 何処へ |
| 6) 遠くで汽笛を聞きながら | 6) 涙の聲 |
| C 1) ジョニーの子守唄 | D 1) 夢去りし街角 |
| 2) センチメンタル・ブルース | 2) 逃亡者 |
| 3) つむじ風 | 3) Wild Wind - 野性の疾風 |
| 4) フィーネ | 4) 未青年 |
| 5) 君よ涙でふりかえれ | 5) 秋止符 |
| 6) チャンピオン | 6) 美しき絆 - Hand in Hand |

レコード ETP-60369~70
¥4,000
テープ ZT-39-571
¥3,900

甲斐バンド



●あの大ヒット「ヒーロー」「タッチ」「安奈」を含む
甲斐バンド白熱のダブル・ライブ

100万\$ナイト・武道館ライブ

- | | |
|------------------|---------------------------|
| A 1) きんばうげ | B 1) 安奈 |
| 2) 感触 (タッチ) | 2) 噂 |
| 3) テレフォン・ノイローゼ | 3) 嵐の季節 |
| 4) シネマ・クラブ | 4) 港からやってきた女 |
| 5) らせん階段 | 5) 三つ数えろ |
| C 1) カーテン | D 1) Hero (ヒーローになる時、それは今) |
| 2) 氷のくちびる | 2) 翼あるもの |
| 3) ポップ・コーンをほおばって | 3) 100万\$ナイト |
| 4) LADY | |

レコード ETP-60360~61
¥4,000
テープ ZT-39-550
¥3,900

オフ・コース



●オフ・コース「さよなら」を含むライブ・ダブル・アルバム!

ライブ

- | | |
|------------------|---------------------|
| A 1) 愛を止めないで | B 1) 風に吹かれて |
| 2) Run Away | 2) 汐風のなかで |
| 3) 恋を抱きしめよう | 3) 失恋のすずめ |
| 4) 雨の降る日に | 4) 老人のつぶやき |
| 5) 思いのままに | 5) さわやかな朝を迎えるために |
| | 6) Chili's Song |
| C 1) 歴史は夜つくれる | D 1) さよなら |
| 2) 君を待つ渚 | 2) のがすなチャンス |
| 3) Save The Love | 3) 愛を止めないで |
| 4) 生まれくる子供たちのために | 4) 僕の贈りもの - ベリオ・パイプ |

レコード ETP-60380~81
¥4,000
テープ ZT-39-580
¥3,900

チューリップ



●チューリップの重鎮、財津和夫の大ヒット
「Wake up」を含むヒットアルバム!

I need you and you

- | | |
|-------------------|-----------------------|
| A 1) 逃避行 | B 1) 君のせいじゃない |
| 2) まるで子供のように | 2) Wake up |
| 3) 不思議なときめき | 3) I need you and you |
| 4) My Sleazy Babe | 4) あなたはだれ |
| 5) 恋と愛の間 | |

レコード ETP-80016
¥2,500
テープ ZT-25-552
¥2,500

長渕剛



●最新ヒット「順子」を含む長渕快心のアルバム!

逆流

- | | |
|------------|------------------|
| A 1) 風は南から | B 1) あんたとあたいは数え唄 |
| 2) 友への手紙 | 2) ひざまくら |
| 3) 順子 | 3) 折り |
| 4) 素顔 | 4) 酔待草 |
| 5) 男は女が必要 | 5) 逆流 |

レコード ETP-80109
¥2,500
テープ ZT-25-479
¥2,500

心への音楽
Toshiba
TOSHIBA EMI

TIGER
for good house-keeping



タイガー魔法瓶



その日から
ごはんのおいしさだけは
安心です。

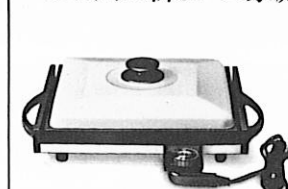
お茶わん2杯分からでもおいしく炊けるスモールサイズ。

より幸せなご家庭を築いていただくために、
“お米が立って、おいしいごはん”で大評判の
タイガー炊飯電子ジャーがお手伝い。タイガー
独自の調圧口の働きで、一粒一粒つややか
なごはんを炊きあげます。炊きあがったごはんは
そのまま保温……いつでもあったかいごはんを
サービスしていただけます。

●ごはんがこびりつきにくく、洗
うのが簡単なスミフロン加工の内
なべ●安全を守る温度ヒューズつき
●空炊き防止スイッチつき●フリー
ストップ式コードリール
small size JCC-0700
標準価格 19,000円
●容量 0.18~0.72ℓ炊き
(その他、ご家族の人数にあわせて
お選びいただける5サイズが揃っ
ています。)

タイガー
炊飯
電子ジャー
炊きたて

—お2人の新しいご家庭にいかがでしょう。—



焼きたて料理のおいしさ、手軽さ。
“じゅうじゅう”でおなじみの
タイガースーパーグリドル



プロの味と香りを手軽にドリッ
プできる
タイガーコーヒーメーカー



シチューやカレーから本格
和風煮込み料理まで
タイガー煮ものジャー



食卓にも、寝室にも…
いつも熱いお湯や冷水を
タイガーポット

より良い暮らしに……タイガー製品